

# フロプシーの ちびっこたちの話



ビアトリクス・ポター さくえ

たちばな こうじ やく



マグレガーの旦那と  
ピーターとベンジャミンの  
すべての小さなともだちへ



何でも、レタスをたくさん食べると、「催眠剤」の効果があるんだそうだ。  
筆者は、レタスを食べた後に眠気を感じたことなんてないがね。  
とはいえ筆者はうさぎじゃない。  
そいつは間違いなく、絶大な催眠効果をもたらしたさ。  
フロプシーのちびっこたちに！



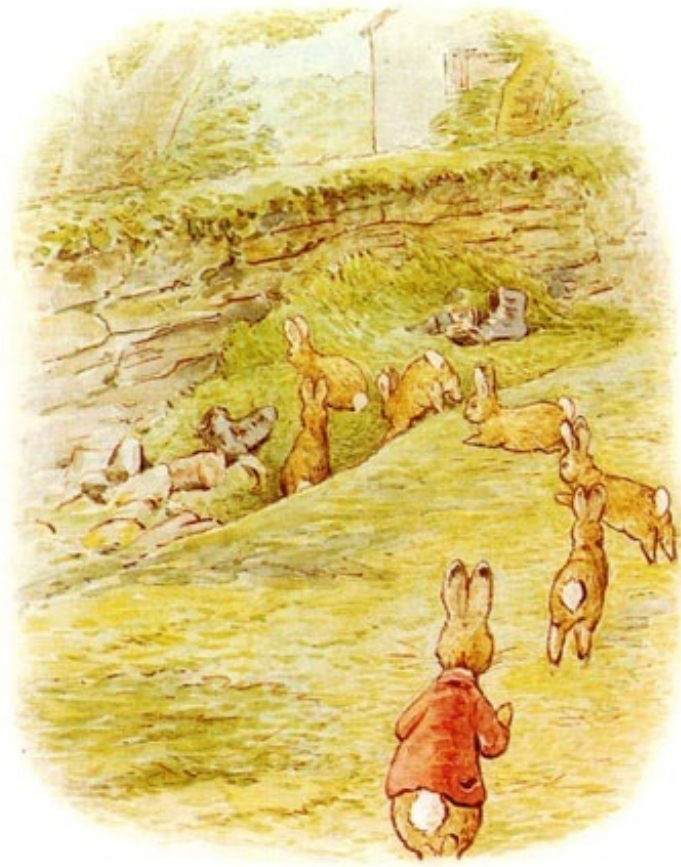
ベンジャミンバニーは大人になって、いとこのフロプシーと結婚したんだ。  
おおぜいのこどもを持って、蓄えなんかまるっきりなくても、明るく楽しく暮らしてた。  
こどもたちひとりひとりの名前は忘れてしまったよ。みんなひっくるめて、「フロプシーんとこのちびども」って呼ばれてたから。



しょっちゅう食べるに事欠く生活だったから      ベンジャミンはよく、フロプシーの兄弟のピーターラビットからキャベツを借りていた。ピーターは、キャベツを苗から育てる畑をつくってたんだ。



時々、ピーターラビットのところにも、分けてやれるほどのキャベツがないことがあった。

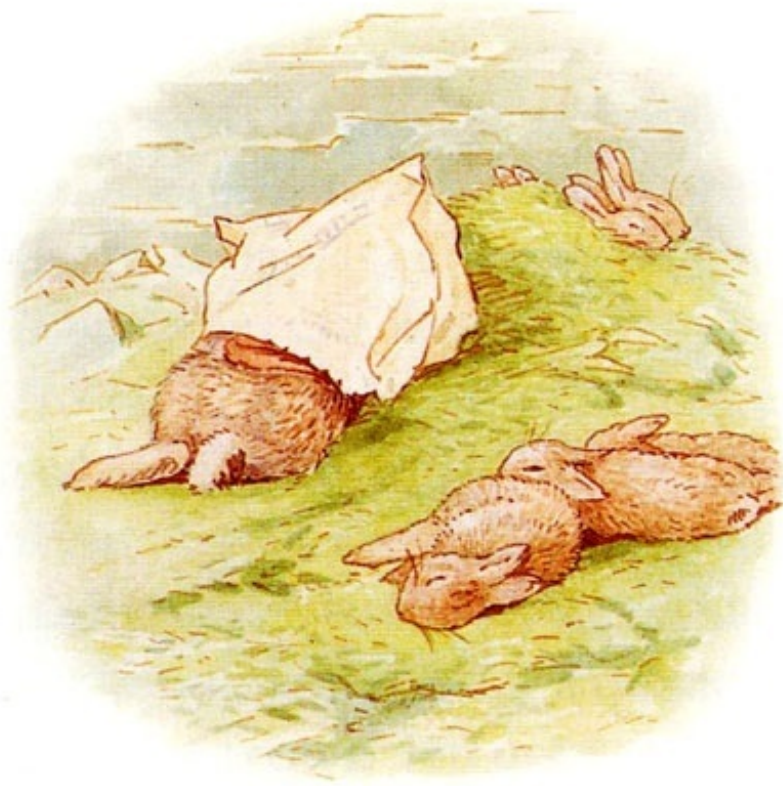


そんな時には、フロプシーのちびどもは原っぱをこえて、マグレガーの畑の外の堀割の中にある、ごみ山に向かった。



マグレガーのごみ山には、いろいろなものがごたまぜに捨てられてあった。  
ジャムのつぼだの、紙袋だの、芝刈機でこまぎれにされた草の山だの（そいつはいつも油っぽかった）  
それから、腐ったペポカボチャだとか、片方だけの履き古した長靴だとかね。  
ある日のこと— やれうれしや！— 育ちすぎて花を咲かせてしまったレタスがどさりと捨ててあったんだ。





フロプシーんちのちびっこどもは、夢中でレタスをむさぼり食った。  
そのうちだんだん、一匹、また一匹と眠気に負けていき、刈りとられた草の中に寝ころがった。  
ベンジャミンは、こどもたちほどころりとはいかなかった。  
眠りにつく前に、ハエにたかられないよう頭に紙袋をかぶるまで、しっかりと目を開けていたさ。



フロプシーのおちびさんたちは、ぽかぽかひだまりの中で、すやすやと眠った。

畑のむこうの芝地から、芝刈機がカタカタ鳴る音が遠く届いた。

アオバエが、堀の石垣の近くをブンブン飛び回り、小さなおばさんねずみが、ジャムのつぼの中でゴミをよりわけていた。

（彼女の名前なら教えてあげられるよ。トマシーナ・ティトルマウス、長いしっぽの野ネズミさ）



彼女がガサガサと紙袋のうえを走り抜けたもので、ベンジャミンバニーが目覚めました。

ねずみは恐縮してさかんにあやまった。

ピーターラビットとは知り合いなんだそうだ。



ねずみとベンジャミンが、石垣にもたれて話しこんでいたところ、頭上から重たい足音が聞こえたかと思うと、突然、マグレガーの旦那が、袋いっぱいの刈り取った芝をぶちまけたんだ、眠っているフロプシーのちびどもの真上に！

ベンジャミンは紙袋の下でちぢこまった。

ねずみはジャムのつぼの中に隠れた。



ちびうさたちは、大量の草の下敷きになりながら、眠ったまま、いい気分でほほえんでいた。

目は覚まさなかったよ、レタスの催眠がよく効いていたから。

かあさんのフロプシーに、寝床の中で干し草をかけてもらう夢を見ていたんだ。

マグレガーの旦那は、袋の中身をあけた後をのぞきこんだ。

おかしい小さい茶色い耳の先っちょが、刈り取った芝の中から突きだしてるのが見えたんでね。

しばらく、じっと見つめてた。



そのうちのひとつにハエが止まると、そいつが動いた。

マグレガーの旦那は、ごみ山に下りていった—

「ひの、ふの、みの、よお！ 五の！ 六の、ちんまいウサ公だ！」

旦那はそう声に出しながら、仔うさぎたちを袋にほうりこんだ。

フロプシーのちびどもは、寢床でかあさんに寝返りを打たされる夢の中。眠りながら少しもぞもぞしたけれど、やっぱり起きはしなかった。



マグレガーの旦那は袋の口をしばり、石垣のうえに置いて、芝刈機を片付けに行った。



マグレガーの旦那がその場を離れているあいだに、フロプシーかあさん（家で留守番してた）が、野原をこえてやってきた。

彼女は袋を不審そうに見やり、みんなはどこにいるのかしらといぶかしんだ。





その時、ねずみがジャムつぼから現れ、ベンジャミンが頭から紙袋をはずした。  
そして憂うべき顛末を語った。

ベンジャミンとフロプシーは絶望したよ。彼らには、袋の紐をほどくことができ  
なかったから。

でも、ティトルマウス夫人は機転の利くねずみだった。

袋のはじっこを少しずつかじって、底に穴をあけてくれたんだ。

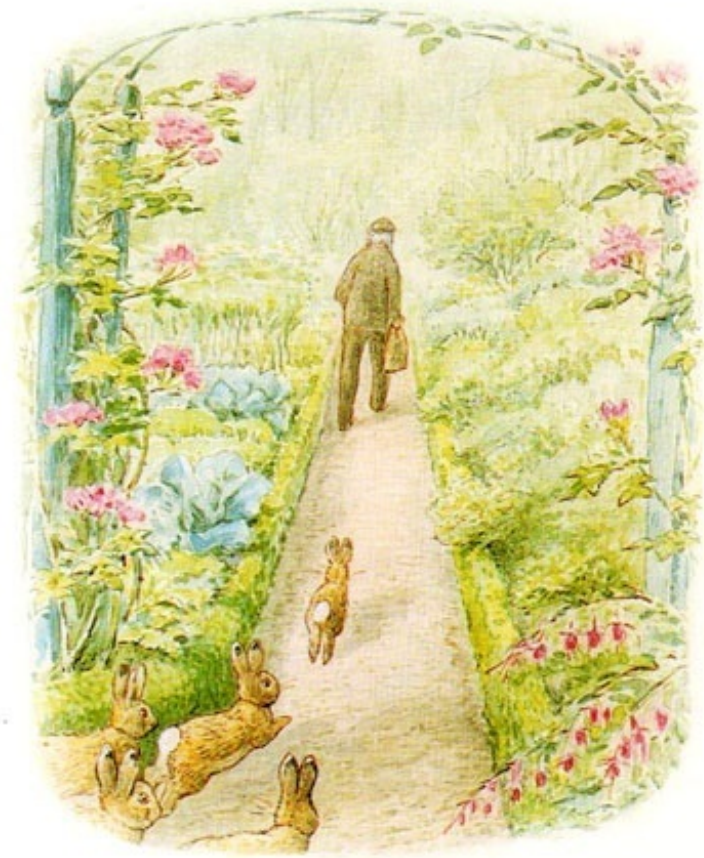


子うさぎたちはひっぱりだされ、つねり起こされた。

親うさぎたちは空になった袋に、腐ったペポカボチャ三つと、古ぼけた靴ブラシ一つ、傷んだカブを二つ詰め込んだ。



そうしてみんなして茂みに隠れ、マグレガーの旦那を待ち受けた。



マグレガーの旦那が戻ってきて、袋を取り上げ運んでいった。  
ずいぶんと重そうに、ぶら下げていったよ。  
フロプシーのちびっこたちは、見つからないくらい離れたところからついていった  
。



旦那が家の中に入るのを見届けると、うさぎたちはそっと窓に近づき、聞き耳を立てた。



マグレガーの旦那は、袋を石の床に投げ落とした。  
もしちびどもが中に入ったままだったら、そうとう痛い目にあったことだろう。  
旦那が石床のうえで椅子をひきずる音がした。それから含み笑う声も聞こえた。  
「ひの、ふの、みの、よ、五、六の、ちんまいウサ公ども！」ってね。



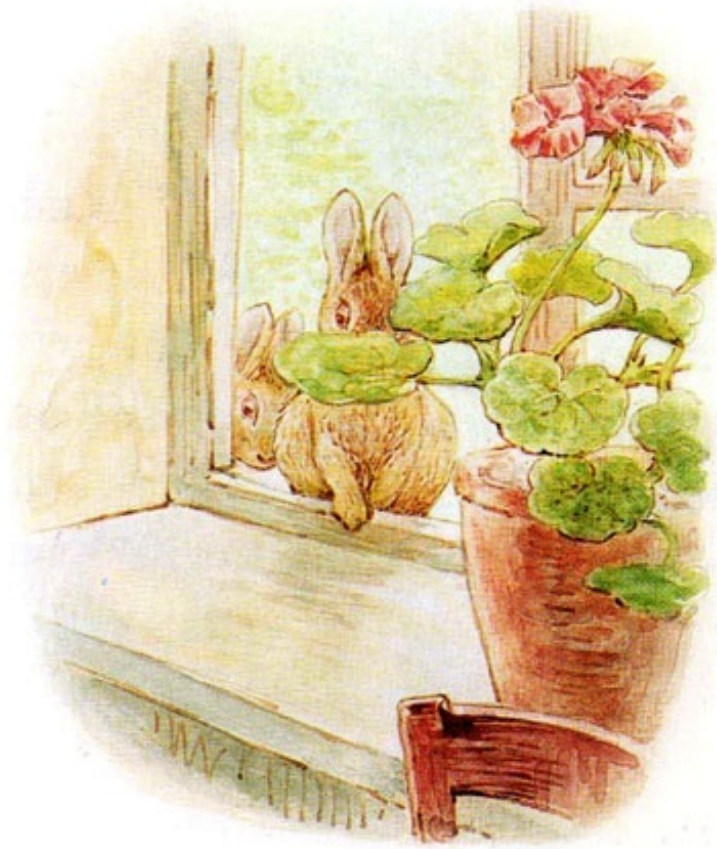
「ええ？ 何だって？ 連中がまた何か台なしにしちまったのかい？」  
たずねたのはマグレガーのおかみさんさ。

「ひの、ふの、みの、よの、五匹、六匹ちんまいふとっちょうさぎがよ！」  
旦那はくり返した、指折り数えながら— 「ひ、ふ、み—」

「ばかなまねはやめとくれ。何のつもりだい、あんた、もうろくしちまったのかい？」

「袋にへえってんだ！ ひい、ふう、みい、よお、五つ、六つな！」  
マグレガーの旦那はそう言い返した。

(いちばん末のフロプシーのちびすけが、窓わくの上にのぼった)



マグレガーのかみさんは袋をつかみ、触ってみて言った。確かに六匹いるようだけど、老いぼれうさぎにちがいないね、えらくかたいし、形もばらばらだし、と。

「食べるにはうまくないよ。けど、皮はあたしの古いケープの裏地にちょうどよさそうだ」

「お前のケープの裏地だと？」

旦那はどなった。

「わしゃそいつを売っばらってタバコを買うんだ！」

「うさぎたばこってかい！ あたしがこいつらの皮を剥いで、頭を切ってやるんだよ」





マグレガーのおかみさんは袋の口をほどき、中に手をつっこんだ。  
そうして触ったのが野菜だったもんだから、かんかんに怒った。  
旦那にむかって言ったよ、「よくもだましたね」って。



それで旦那もかんかんさ。

腐ったペポカボチャがひとつ台所の窓から飛んできて、フロプシーの末のちびにぶつかった。

そりゃあ痛かったよ。



そこでベンジャミンとフロプシーは、もう家に帰るしおどきだと思った。



そんなわけで、マグレガーの旦那はたばこを買いそこなったし、おかみさんはうさぎの皮を手に入れそこねた。

けれど、その年のクリスマスプレゼントに、トマシーナ・ティトルマウスは、兎の毛糸をもらったんだ。外套とずきん、それにりっぱなマフとあたたかい手袋をひとそろい作れるくらい、たくさんね。

おしまい

## ポター作品リスト

---

Beatrix Potter作品の日本における著作権は消滅し、パブリックドメインに帰しています。  
翻訳の底本はFREDERICK WARNE出版の The original and authorized edition です。

1. The Tale of Peter Rabbit (1902) 【[ピーターラビットの話](#) : 2012.3】
2. The Tale of Squirrel Nutkin (1903) 【[リスのナトキンの話](#) : 2012.3】
3. The Tailor of Gloucester (1903) 【[グロスターの仕立屋](#) : 2012.4】
4. The Tale of Benjamin Bunny (1904) 【[ベンジャミンバニーの話](#) : 2012.3】
5. The Tale of Two Bad Mice (1904) 【[二匹のいたずらねずみの話](#) : 2012.12】
6. The Tale of Mrs. Tiggly-Winkle (1905) 【[ティギーウィンクルさんの話](#) : 2012.5】
7. The Tale of the Pie and the Patty-Pan (1905) 【パイと焼き型の話 : 執筆中】
8. The Tale of Mr. Jeremy Fisher (1906)
9. The Story of A Fierce Bad Rabbit (1906) 【[あらくれやくざうさぎ物語](#) : 2012.12】
10. The Story of Miss Moppet (1906) 【[モペット嬢物語](#) : 2012.12】
11. The Tale of Tom Kitten (1907) 【子ねこのトムの話 : 執筆中】
12. The Tale of Jemima Puddle-Duck (1908)
13. The Tale of Samuel Whiskers or, The Roly-Poly Pudding (1908)  
【[サミュエル・ウィスカースの話 もしくは、うずまきプディング](#) : 2013.4】
14. The Tale of the Flopsy Bunnies (1909) 【[フロプシーのちびっこたちの話](#) : 2012.4】
15. The Tale of Ginger and Pickles (1909) 【[ジンジャーとピクルズの話](#) : 2013.1】
16. The Tale of Mrs. Tittlemouse (1910)
17. The Tale of Timmy Tiptoes (1911)
18. The Tale of Mr. Tod (1912) 【[ミスタートッドの話](#) : 2012.11】
19. The Tale of Pigling Bland (1913) 【[ピグリブランドの話](#) : 2013.12】 **NEW**
20. Appley Daply's Nursery Rhymes (1917) 【[アプリー・ダプリーの童謡](#) : 2012.4】
21. The Tale of Johnny Town-Mouse (1918)
22. Cecily Parsley's Nursery Rhymes (1922) 【[セシリ・パセリの童謡](#) : 2012.4】
23. The Tale of Little Pig Robinson (1930) 【[こぶたのロビンソンの話](#) : 執筆中】

原文参照 :

[Project Gutenberg : Books by Potter, Beatrix](#)

[Arthur's Classic Novels / Beatrix Potter](#)

フロプシーのちびっこたちの話

<http://p.booklog.jp/book/47552>

作者：ピアトリクス・ポター

訳者：橘 柑子

作者プロフィール：<http://ja.wikipedia.org/wiki/ピアトリクス・ポター>

訳者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tokijikudou/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/47992>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/47992>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社：株式会社paperboy&co.